

# 【 第20回 日韓スポーツ交流女子・派遣 】

2016年10月16日～10月21日 大韓民国・仁川

## 試合結果報告 10月19日 (水)

JPN	VS	KOR
12	前半	12
8	後半	8
20	合計	20

### 個人得点

名前	前半	後半	合計
下馬場 燎			
瀧川 璃紗	2	2	4
岡田 彩愛	2	1	3
橘高 由衣	2	1	3
江本ひかる	3	2	5
酒井優貴子		1	1
伊藤 実咲			
守屋 葵			
伊波 優里			
上嶋 亜樹			
佐藤 優花	3	1	4
高木 朔来			
藤井 咲良			
柿添まどか			
橋口 和佳奈			
合計	12	8	20

### 戦評

日韓交流戦韓国ラウンドは、日本の緻密なDFとパワーやスピードのある韓国の攻撃の戦いだった。

日本チームの徹底した4・2DFに対し、韓国チームはポストプレーで日本チームのDFを崩そうとした。日本チームの機動力を生かしたDFは相手チームの攻撃を圧倒し、ややアウェイの笛に押されながらも粘りに粘るDFを実現させた。しかしながら、相手チームのパワーやステップワークの速さも大変素晴らしく、日本チームを苦しめた。

前半ラスト4分では、9・12で劣勢ではあったものの、岡田の速攻佐藤のサイドシュート、瀧川の7mで同点まで追いつき終了した。

チーム発足当初から、「自分たち選手の力で韓国に勝てるチームを創る」と選手自ら課題を見つけ出し、自ら積極的に問題解決してきた。

ハーフタイムでも、韓国チームの特徴や戦術などを選手たちの話し合いで共有した。後半の戦い方、考え方などの選手からアイデアを出した。韓国チームの控え選手の特徴と可能性まで話し合って共有し後半に備えた。

後半、韓国の得意プレーであるカットインで先制をされたが、すぐさま江本のサイドシュートで点を取り返した。急激な笛の変化に対し、不利な状況になっても動揺することもなく、粘り強くDFをすることを共有した。

ラスト8分、17対19で劣勢であった日本は、瀧川・橘高・江本・岡田のシュートで20対19と逆転したが、ラスト25秒でサイドシュートを決められ、20対20の同点で試合終了となった。

日本の機動力を生かした見事なDFとそれを具現化した選手の主体的な取り組みが印象的な試合であった。

報告記入者：

麻生 薫